

歴代会長

初代	田中 浅次郎	昭和33年～40年	七代	峰岸 勲	昭和61年～平成7年
二代	柴崎 鉄三郎	昭和40年～41年	八代	川上 正太郎	平成7年～9年
三代	田中 忠蔵	昭和41年～45年	九代	影山 トシ子	平成9年～24年
四代	田中 浅次郎	昭和45年～49年	十代	村松 勲	平成24年～27年
五代	岡本 正吾	昭和49年～53年	十一代	佐藤 誠一	平成27年～
六代	神山 貞三	昭和53年～61年			

町会の現状と活動

我が町会は、「南中野の昔」（著者・立石墨）によると、江戸期から明治中期まで雑色と呼ばれ、大宮八幡宮の雑色料の土地だった由来とも言われています。町を流れる神田川は江戸初期に造られた日本最初の上水で江戸の街へ飲料水を供給していました。しかし、この上水は川幅も狭く大雨が降ると氾濫し、特に昭和33年の狩野川台風は広範囲に水害をもたらし、町民も多大な被害を受けました。その2年後に中野区画整理組合が出来て護岸整備や上下水道の普及、荻窪線の開通、昭和39年の東京オリンピックに合わせた道路の整備等洲順調に進み、安心して便利な町に変貌しました。

当町会は街灯の維持管理の「雑色電灯会」を結成したのが始まりで、水害を契機に町民相互の助け合い、連帯、住み良い町づくりを目標に電灯会を解消し、本格的な住民組織「雑色町会」として産声をあげました。昭和42年の住居表示変更に伴い、現在の「南会五丁目町会」と改名されましたが、目標とする理念は受け継がれました。

町会の活動は、行政機関の広報周知、町民互助、災害時の対応等多岐に渡ってきています。恒例行事の「納涼盆踊り大会」「ラジオ体操」「神輿と子供山車の祭礼」「餅つき大会」は、高齢者から子供まで交流と融和の場となっています。幼少期の楽しい思い出は、大人になっても帰るべき故郷があるという事で町会がそれを担っていると思っています。

春と秋の交通安全運動週間には登校時間帯の「旗振り」、毎月の第一・第二土曜日と歳末には町会員の有志が夜間パトロールを実施しています。戸建てが少なくなり、マンション等集合住宅が建ち、人口は増えているのに、町会員が減少しているのが気にかかります。今後はマンション管理組合や自治会との連携が町会運営の鍵ではないでしょうか。大地震の惨状がマスコミによって伝えられ、住民の相互協力が人々の大きな助けになっています。大都市東京にも発生すると予想されている中、今こそ町会の重要性が問われています。町会の敷居は決して高く無く、多くの方々の参加を待っています。都合のつく時、小さな事でも良いです。町会に参加してみてください。誰かがやらねば、帰りたいと思える故郷の町が無くなってしまいます。どうかお力を貸してください。皆様のご健勝を心より祈念致します。

(南台五町会会長 佐藤 誠一)



納涼盆踊り大会